

花咲きホールからのお知らせ

TEL 36-2323
FAX 36-2777

チケット6月4日発売!

花咲き映画の集い パーソナル・ソング

～土曜の夜は花咲きホールで映画を楽しみませんか～

- ▶上映日 7月20日(土) 18時30分開場 19時上映
- ▶入場料 500円 全自由席 未就学児入場不可
- ※売り切れの際はご了承ください
- ▶場 所 花咲きホール
- ▶主 催 市教育委員会

チケット6月11日発売!

明日を拓くコンサート

ショッピングモールの歌姫 半崎美子コンサート

- ▶出 演 半崎 美子
- ▶公演日 7月28日(日) 13時30分開場 14時開演
- ▶場 所 花咲きホール
- ▶入場料 一般2,000円、高校生以下1,000円、
全自由席、未就学児入場可
- ※売り切れの際はご了承ください
- ▶主 催 市教育委員会



半崎 美子

第15回花咲きコンサート「市民による第九合唱」メンバー募集!

～ベートーヴェンの交響曲第九番第4楽章の合唱に参加できる人を募集します～

- ▶公 演 日 12月1日(日)
- ▶練 習 日 8月31日以降の毎週土曜日 18時30分～21時
- ▶場 所 花咲きホールまたは富岡公民館
- ▶参加条件 中学生以上。全練習のうちおおむね半分以上参加できる人。山県市在住・在勤を問いません。
- ▶会 費 2,000円(家族割引有り)、
中・高校生1,000円、
楽譜700円(希望者のみ)
- ▶内 容 ベートーヴェン作曲 交響曲第九番より第4楽章の合唱 ほか

花咲きホール・古田紹欽記念館 6月休館日のお知らせ

3日(月)、10日(月)、17日(月)、24日(月)、
30日(日)

- ▶チケット取扱場所
花咲きホール、会計課、高富・美山中央公民館
- ▶チケット取扱時間
開館時間 9時～17時(閉館・休館日を除く)

図書館本館、高富中央公民館図書室、みやまジョイフル倶楽部図書室

▼場所

▼休館期間

6月10日(月)～17日(月)

蔵書点検のため、次の期間中は臨時休館します。

臨時休館のお知らせ

▼場所 図書館本館

※参加申し込みが必要
定員になり次第締切

さんとその保護者

▼対象 0から3歳までのお子

▼日時 6月4日(火)10時15分

親子で楽しく過ごしましょう。

読み聞かせ、制作を行います。

英語あそび、リズムあそび、

絵本の世界にとびだそう!

乳幼児教室

アニメ「ダンボ」(64分)

▼日時 6月23日(日) 14時

DVD無料上映会を行います。

シアターセットで子ども向け

図書館上映会

TEL 36-3339

図書館からのお知らせ

古田紹欽記念館からのお知らせ

TEL 36-1023

古田紹欽記念館子ども講座

七夕月さらさら会 ～さらさら茶会&土田先生の和小物づくり講座～

- ▶日 時 7月13日(土)13時～15時30分
13時～さらさら茶会、14時15分～和小物づくり講座
- ▶場 所 古田紹欽記念館 展示室・和室
- ▶対 象 小中学生(低学年は保護者同伴)
※保護者は茶会のみ参加可
- ▶定 員 20人程度(事前要予約)
- ▶内 容 ・さらさら茶会
子どもお茶教室生のお点前とお運びによるミニ茶会
・和小物づくり講座
講師に土田良美さんを迎え、牛乳パックを使用した
和小物入れと、フェルトや布を使い季節の柄のオリジ
ナル羽子板を作ります。
- ▶持 ち 物 ハサミ、のり(液状)、牛乳パック
- ▶参 加 費 800円(講座+呈茶代)※お茶会のみ参加費300円
- ▶申込締切 7月7日(日)※定員に達していない場合は随時受付
- ▶申込方法 詳しくは記念館へ問い合わせてください。



【作品例】

羽子板・和小物(各一つを作ります)

臨時休館日のお知らせ

館内資料整理と蔵書点検作業のため次の期間中は臨時休館します。

▼休館期間

6月11日(火)～14日(金)



先人の足跡 ～古田紹欽～

第3回「伊自良の思ひ出」

謹一(紹欽さんの本名)が、伊自良で過ごしたのは小学校2年生の修了時まででしたが、幾つかの思い出話を語っています。

お盆や鎮守の祭りのとき、鬼や天狗のお面、線香花火、ラムネなどの出店を回った事、小学校の友達と蝉や蝶を捕った事、蓮華畑で相撲をとった事、喧嘩をした事などの思い出があり、同窓会で同級生と会うことは二一緒に寄り添えば忘れたことが話のなかから次から次へとよみがえり、忘れていたことを思い出すのは楽しい」と語っています。

また、当時子どもの履物は、藁草履が通常だったので、農家の家々では、藁草履を夜なべ仕事で作っていました。謹一は、その藁草履を粗末に扱うことはなく、草履がすり切れるまで履き、また、雨が降ると草履をぬらさないように脱ぎ懷に入れ、素足で歩いて帰りました。当時は、ガラス瓶やガラス皿などといったものは農家にはほとんどなかったもので、裸足で村の道を歩いても足の裏を切ることはなかったと語っています。

その後、謹一はたくさんの思い出がある伊自良を離れ、郡上にある慈恩寺へと旅立ちました。

(7月号へ続く) 参照 古田紹欽著
幾山河 我が禅仏教への道